令和５年度 学校評価報告書

丹波篠山市立多紀小学校

校長　　松　笠　勝　也

1　学校教育目標等

ふるさとに愛着を持ち、将来にわたって学び続ける児童の育成

2　今年度の重点目標

（１）夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む
（２）確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する
（３）児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る
（４）保護者・地域との連携を深め、ふるさと多紀に根ざした「地域とともにある学校づくり」を探求する。
（５）安全安心な学校づくり・学級づくりを基盤とした、豊かな人間関係と人権感覚を育成する。
（６）自分の健康や体力に興味をもち、体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。

3　学校自己評価結果

（達成状況…Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	児童に夢や目標を持たせ、学ぶことの意義について指導している。	B	今後も児童一人ひとりの言動に目を向けたり、耳を傾けたりして、家庭とも連携しながら学校生活全体を通して、児童が夢や目標を持って取り組めるように指導していく。
学習指導	児童一人一人が１時間の学習に満足できる授業にする。	B	児童のつまずきを把握して、教職員間で学び合いながら授業力の向上に努める。児童が意欲的に学ぼうとする姿が見られる授業を工夫する。また、「基礎学力の向上」を目指して、朝の「多紀っ子タイム」の充実を図る。
	自分の思いや考えを自分の言葉で書いたり相手にわかりやすく話したりする手立てを講じる	C	国語科の授業に限らず、他教科や日常の中から「要約する」活動を取り入れることや、自分の意見や考えをもち、友だちと伝え合う場面の設定など、授業展開を工夫する。
生徒指導	いじめや仲間はずれを許さない楽しく明るい学校生活が送れるよう指導を行っている。	A	９割以上の児童が楽しい学校生活を送っていると回答している。今後も全教職員で同じ目線での指導や支援を続け、いつでも相談できる体制を継続していく。
	あいさつや基本的な生活習慣が児童に定着するよう、手立てができている。	B	地域の方からあいさつがよくできていると言われる。学校や児童会での取組の成果である。早寝、早起き等の生活習慣の確立について、家庭科、保健での指導や学級懇談による保護者への啓発を行う。
ふるさと教育	ふるさとのよさを児童が見つけられるように、地域の人材・自然・施設を積極的に授業に活用している。	A	児童の９０％以上が「ふるさと多紀」のよさを感じ、学習を進めることができていると回答している。今後も、３地区を意識したふるさと学習を広げていく。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・夢や目標を持っている我が子の姿を間近で見てほほえましく感じる。普段から先生や友だちとコミュニケーションが取れていて成長が見られる。
・楽しい学校生活を送っていることが子どもの話から感じる。子ども同士、先生との会話が多いこともその要因であろう。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・「困ったときには大人に相談して」ということは子どもに伝えるが、「なぜ相談したらよいのか」も伝える必要がある。ヒントを見つけ出すための時間も必要。子ども達にイメージしやすい環境を作り出してやる。小学校の間にその体験をし、習慣づけておくと大きくなってもつながっていく。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	・家の中では、自分の考えをきちんと伝えられる力がついてきていると感じる。 ・基礎学力を気にかけて宿題も学校でよく見てもらえている。 ・個人懇談等でも子どもの課題を親にも正確に伝えてもらっているので、家庭と連携した学びにしてもらえている。 ・発表することを「はずかしい」と感じたり、少人数での人間関係で自分の立ち位置が分かってしまって発言しなかったりすることもあるようだ。「勉強が分からないことを分からない」と伝えられているからこそ、発表に対する否定的な回答が３割程度で収まっているとも考えられる。
生徒指導	・あいさつはよくできていると感じる。中学校へ行ってもつながっている。ずっとつないでいってほしい。 ・中学校の生徒はよく挨拶をする。小さいときからの積み重ねであると感じる。基本的生活習慣は「あいさつ、早寝早起き、手洗い」の３つともできないと「できた」と答えられないのではないか。１つだけで焦点を絞ってもよいのではないか。 ・「ことば」の大切さを児童に教えてほしい。言葉の使い方一つで心にどう響くかを考える機会としてほしい。
ふるさと教育	・楽しく意欲的に活動できているため、校外学習（校区）の話をよく家でもしている。各学年で進めているため、共通認識しながら家族での会話が進む。地区のよさを分かってくれていると感じる。 ・児童自身が学校のHPの見方を知り、家でつなぐことはとてもよいことである。 ・学校だより等は、ＱＲコード等で写真を見やすくする方法もあるとよい。（ＨＰへリンクするＱＲ等）